

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00858

研究課題名（和文）古代～近代陰陽道史料群の歴史の変遷と相互関係の解明

研究課題名（英文）Historical Transition of Onmyodo Documents through ancient to modern Japan

研究代表者

梅田 千尋 (UMEDA, Chihiro)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：90596199

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：かつて陰陽道は、平安期の朝廷社会で一時的に流行し中世に衰退した禁忌思想と捉えられていた。近年は中世以降の拡大や、近世・近代に至る信仰文化としての定着など、各時代における実態の解明が進み、陰陽道史研究は新段階を迎えている。伴って、時期区分のあり方や中世後期～近世初期の断絶にたいする解釈、仏教・神道・修験道との関係など、共通課題も浮かび上がってきた。こうした課題に対し、本研究では、古代～近世の各時代史および民俗学・宗教学の研究者が共同で史料調査にあたり、情報の共有をすすめることで通史的把握を試みた。とくに空白期とされる時代の祭祀資料も視野に入れ、陰陽道関連史料群の体系的な把握につとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、『新陰陽道叢書』の刊行および日本宗教学会学術大会でパネルセッションにより学界で共有されている。

また、国立歴史民俗博物館での2023年度企画展「陰陽師とは何者か うらない、まじない、こよみをつくる」という形で一般に発信し、多数の来場者を得た。展示に関連して開催された「れきはくフォーラム」では、科研メンバー全員が発表・コメントを分担した。この展示は、国立歴史民俗博物館蔵奈良暦師吉川家文書の調査・研究結果を中心としたものであるが、他にも、大分県・京都府・福井県など、本研究を通して調査・研究してきた史料調査の成果を盛り込み、陰陽道史の通史的展開を多彩な史料で可視化したものである。

研究成果の概要（英文）：Older studies have shown that Onmyodo as a magical superstition that was temporarily popular in the court society of the Heian Period and declined in the Middle Ages. In recent years, the study of Onmyodo has entered a new phase. The actual conditions in each period have been explored, including its spreading after the Middle Ages and its establishment as a religious culture in the Early Modern and Modern periods. In conjunction with this, important issues have also emerged, such as the theory of period segmentation regarding the blank period; from the late medieval to the early modern period. In this study, researchers in the history of each period, folklore and religious studies, collaborated in researching historical documents in an effort to systematically understand the Onmyodo related archives. We gained a general historical understanding of these issues by sharing information and interpretations of historical sources, focusing on the blank period.

研究分野：日本近世史

キーワード：陰陽道 暦 術数 呪術 民間信仰 占

1. 研究開始当初の背景

かつて陰陽道史研究は、平安期を中心として発展してきたが、近年の研究では、中・近世における陰陽道・陰陽師の姿も明らかにされている。民俗領域・東アジア近隣諸国との比較といった観点からも注目され、陰陽道史の射程は広がっている。これらの研究に基づき、研究代表者は、『新陰陽道叢書』全5巻の編集を手がけた(名著出版 2020-21年)。この論集は、1990年代以降の陰陽道研究の成果を収集し、現時点での論点整理を試みるものである。平安期宮廷社会で特異に発展し、応仁の乱以降衰退・没落したとみる旧来的な史観(1981年村山修一『日本陰陽道史総説』他)は一面的な理解であった。陰陽道祭祀の広がりは、武家社会にも及んで、むしろ院政期～室町前期に顕著であり、顕密仏教・神祇信仰との関係も、鎌倉期に深まった。さらに、中世後期の暦の広がりや地方への波及は陰陽道知識の担い手の拡大をもたらした。なお、陰陽道史においては中世前後期の変化は大きく、顕密体制論を踏まえた新たな時代区分が必要となってくる。さらに戦国期から近世後期にかけて、陰陽道に関する記録の担い手の断絶が発生するが、この断絶を経て、近世には安倍氏子孫の土御門家が本所として陰陽師を編成し、全国的な陰陽道組織が確立される。こうした経緯を経て、陰陽道にかかわる信仰や知識は、禁忌と吉凶観念に基づく生活文化として定着する。陰陽道は明治維新期の廃仏毀釈をはじめとする宗教政策の一環として廃止されるが、近代の諸宗教集団や易占団体との連続性は、近年の研究課題となっている。また、陰陽道に関わる禁忌は、暦(時間・空間の吉凶)と関わり、神仏信仰の基盤でもある、宗教史・民俗学・伝承文学研究の視点からも根源的かつ通時代的な重要課題である。

2. 研究の目的

各時代・各分野における陰陽道研究の深化・進展が明らかになった一方で、改めて、共有すべき課題が浮上してきた。例えば中近世移行期における陰陽道の質的变化はいかにしてもたらされたのか、明治維新を陰陽道の消滅と捉えて良いのかといった、時代区分や移行期のとらえ方に関する議論である。これらについて方向性を示し、陰陽道史研究における時期区分を宗教史上に位置づけること。そして史料が欠落する空白期・断絶期について、前後両時代から情報共有を進めることである。

また例えば、「民間陰陽道」とはどのような宗教者を指すのか。或いは、陰陽道信仰の範囲について、占法・儀礼・祭神の典拠が明確な「狭義の陰陽道」と、時間・空間の吉凶を対象とする「広義の陰陽道」の二重性で捉える図式化は通時代的に成立するのか。といった概念規定や用語のとらえ方について、時代毎に異なる解釈の差異をすりあわせる必要も指摘されている。

こうした諸問題に対し、改めて古代～近世及び民俗学・宗教学研究の協業により、陰陽道史料の読み直しと再配置を進めることを目的とした。

3. 研究の方法

吉川家文書を中心に、下記のような視点から、陰陽道祭祀・呪術・占および暦注を収集し分析した。古代～近世史、民俗学・宗教学という異なる時代の専門家がおなじ史料・史料群の分析を奨めることで、史料の相互関係を明らかにし、陰陽道史料、とくに祭祀関連史料の編年と体系化を推進した。

陰陽道祭祀史料の編年と体系化

陰陽道に関わる組織や制度の研究に比べ、実践内容である儀礼・祭祀研究の歴史的把握が遅れてきた理由の一つは、残存する史料と研究者の関心の不一致にあるだろう。現存する祭祀史料は、主に14世紀以降のものであり、平安後期の陰陽道に典型を求め、明らかにしようとする研究姿勢のもとでは十分活用されてこなかった。例えば陰陽道祭の祭文について、宮内庁書陵部土御門本・京都府歴史館若杉家文書など多数の中近世史料が現存するが、古代の記録史料と合致したり、古代陰陽道祭祀の復元につながる箇所のみが取り上げられる傾向があった。しかし、残存する史料が、平安期以前の陰陽道からどのように変容し、誰によって複写・伝来したのか、その過程・系統性を踏まえた研究は必要であろう。

赤澤・梅田による祭祀研究は、これらの資料群に含まれる祭文類を改めて読み込み、分析した成果である。

陰陽道書の伝播

中世以前の陰陽道儀礼・易占に関する知識は、特定の官職・家職のなかで伝授され、朝廷周辺にのみ伝来すると考えられてきた。しかし、鎌倉期には九州・関東などに陰陽師の拠点が存在したことを考えると、各地方に伝わる陰陽道書にも、目を向ける必要はあるだろう。細井は青森の古谷義昭氏所蔵史料から土御門家に伝わったものと別系統の『暦林問答集』を発見し、分析した。また、会津修験史料群の『簠簋内伝』古写本は小池が調査を進めた。このように地方所在の中近世史料群に、陰陽道の祭文や暦学書など、陰陽道写本の伝来について多くの知見を得た。

暦と暦に関わる知識

中近世の陰陽道信仰・知識は、地方暦とも密接に関係する。地方における頒暦・暦学と陰陽道信仰について資料収集を行い、細井・林・梅田により、南都・伊勢丹生の暦師に関するなどの事例が明らかになっている。また、赤澤・小池は、呪術書や占法書について、暦・陰陽道書の伝来過程について検討を行った。

全国各地に点在する晴明伝承の総合的検討

安倍晴明に関する伝承が全国に分布することは、民俗学・伝承文学の視点から注目されてきた

が、文献史学からの言及は少なく、周辺の中近世の地域史料との照合作業は十分行われてこなかった。小池による一連の研究は、例えば、香川県の清明関連遺跡、姫路市、敦賀市清明神社、茨城県猫島、鎌倉などに点在するこれらの伝承を、東方朔など他の系統の伝承と比較しつつ跡づけた。

4. 研究成果

* 令和3(2021)年度の成果

本共同研究参加者が科研採択以前より編集を進めてきた『新陰陽道叢書』(名著出版)の刊行を継続し、全五巻を完結させることが出来た。各巻に集録された個別の論文については、別記業績報告の通りである。これらの成果は、異なる時代・分野を専門とする研究者が、陰陽道史料群の共同研究を行うことで、通史的解明を目指すという本研究の目的をある程度達成したと言える。特に最終巻の「第五巻特論」では、従来見られなかった東アジア諸地域における暦制の比較や、安倍晴明像の変遷を通じた史実と伝説との相互作用など、新鮮な論点を織り込むことが出来た。全巻を通じて陰陽道史の新たな時代区分・時代像を提起しえたといえるだろう。

また、『新陰陽道叢書』各巻刊行に伴って、〔陰陽道史研究会〕や〔暦の思想史研究会〕などの研究会で書評会や関連する研究会をもち、隣接分野も加えた研究者との意見交換を行った。さらに、日本宗教学会でのパネル「暦の思想史」でも本共同研究の成果を披露した。共同研究のもう一つの柱である共同での史料調査(特に国立歴史民俗博物館での現物史料を用いた調査)と史料情報の整理・集積については、蔓延防止等重点措置などの影響で予定通りには実施できなかったものの、参加者個々人による史料収集は一定程度進展し、それぞれ成果として発表している

* 令和4(2022)年度の成果

2021年度の『新陰陽道叢書』(名著出版)全五巻完結を受け、「陰陽道史研究会」「暦の思想史研究会」において書評会を行い、成果を学会で共有することが出来た。この書評会を受けて企画された論集『アジア遊学 278 呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』でも、共同研究者による論考を掲載し、それぞれの成果を発信した。

また、昨年に引き続き宗教学会第81回学術大会においても、パネル発表「陰陽師の虚像と実像」を企画し、共同研究・叢書刊行で得た知見に基づく新たな視角からの研究発表を行った。さらにこの研究成果を企画展示という形で発信することが決定した。同展示では、古代～現代に至る陰陽道関連の歴史史料を体系的に収集し、紹介する。なかでも国立歴史民俗博物館所蔵奈良暦師吉川家文書を中心として構成するため、同史料の調査・分析を優先し、展示品候補となる史料調査を行った。

具体的には、梅田・小池が福井県おおい町名田庄の土御門家旧跡関係史料調査を進め、奈良での現地調査を行った。赤澤は、宇佐八幡宮周辺の寺辺陰陽師史料調査を継続した。林は暦学・科学史関係史料を調査し、細井は古代・中世の陰陽道関係史料の分析と吉川家文書との比較を進めた。

* 令和5(2023)年度の成果

本研究による史料調査の成果を、国立歴史民俗博物館での企画展「陰陽師とは何者か うらない、まじない、こよみをつくる」(2023年10月～12月)という形で発信した。

この展示は、国立歴史民俗館蔵奈良暦師吉川家文書の調査・研究結果を中心としたものであるが、他にも、大分県宇佐八幡宮関係史料・宮内庁書陵部所蔵土御門家文書・京都府京都学歴彩館所蔵若杉家文書・京都市大將軍八神社所蔵皆川家文書・福井県おおい町谷川家文書など、当科研を通して調査・研究してきた史料調査の成果を盛り込み、陰陽道史の通史的展開を多彩な史料で可視化したものである。

これらの展示史料に関する所見や関連情報は展示図録に掲載した。図録では各時代・テーマ毎の総説・概説を研究メンバーで分担執筆し、それぞれ研究成果を反映した内容になっている。また、図録を一般書籍としても購入可能な形態で刊行したことで、展示図録でありながら専門書としても通用するものとなった。図録の他に、個々の研究成果である論文も『国立歴史民俗博物館研究報告 247 集』に特集(〔共同研究〕奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成)として掲載した。論文6本(うち4本が当科研メンバーによる執筆)、研究ノート4本(同1本)、資料紹介3本(同1本)と調査研究活動報告(年表など)を収め、当科研で行ってきた資料調査・研究活動の集大成となっている。

また、展示に関連して開催された「れきはくフォーラム」では、科研メンバー全員が発表・コメントを分担した。コメンテーターとしてフランス高等実習院よりマティアス・ハイエク氏を招聘し、研究成果を共有する機会を得た。

図録の他に、個々の研究成果である論文も『国立歴史民俗博物館研究報告 247 集』に特集(〔共同研究〕奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成)として掲載した。論文6本(うち4本が当科研メンバーによる執筆)、研究ノート4本(同1本)、資料紹介3本(同1本)と調査研究活動報告(年表など)を収め、当科研で行ってきた資料調査・研究活動の集大成となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 954号
2. 論文標題 「大根と神霊 民俗祭祀の音と場」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 學士會会報	6. 最初と最後の頁 66 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 260号
2. 論文標題 「太陽暦受容の一面 「新暦萬歳」の紹介」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『西郊民俗』	6. 最初と最後の頁 21 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 -
2. 論文標題 「橋本萬平の科学史研究 その視点と射程」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『江戸・明治の物理書』	6. 最初と最後の頁 383 394
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 54
2. 論文標題 陰陽道研究の可能性 『新陰陽道叢書』完結に寄せて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本思想史学』	6. 最初と最後の頁 56 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 278
2. 論文標題 「中世における陰陽道祭祀の展開 雷公祭・風伯祭を事例に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アジア遊学278 呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望』	6. 最初と最後の頁 67～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 -
2. 論文標題 「山村における病とまじない」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『山村は災害をどう乗り越えてきたか 山梨県早川町の古文書・民俗・景観を読み解く』	6. 最初と最後の頁 247～260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 -
2. 論文標題 「亀沢四丁目遺跡出土の呪符かわらけについて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 墨田区教育委員会『亀沢四丁目遺跡（墨田区No.83遺跡）』	6. 最初と最後の頁 133～146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 12
2. 論文標題 「鎌倉殿、北条氏と陰陽師」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『怪と幽』	6. 最初と最後の頁 42～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井浩志	4. 巻 278
2. 論文標題 陰陽師による天文道・暦道の兼帯について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア遊学278 呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 278
2. 論文標題 江戸時代の陰陽道認識と陰陽師 呪術書と重宝記	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア遊学278 呪術と学術の東アジア 陰陽道研究の継承と展望	6. 最初と最後の頁 164-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田 千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 解題： 加茂神社宮司谷川左近家文書の土御門陰陽道史料	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 土御門家陰陽道の歴史 名田庄・納田終の地にて おおい町文化財調査報告書2022年度 加茂神社宮司谷川左近家文書	6. 最初と最後の頁 1-18,42-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 「ホキ」とは何か 陰陽道の由来と行方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 112-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 5巻別冊
2. 論文標題 江戸時代の暦と暦注	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究9	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦・梅田千尋・斎藤英喜・細井浩志	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 討議 1 陰陽道研究の現在とこれから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 74-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 陰陽道の中世的展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 50-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 3
2. 論文標題 暦と天文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第三巻近世	6. 最初と最後の頁 65-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 5
2. 論文標題 総論 陰陽道研究を広げる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第五巻特論	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 5
2. 論文標題 明治初期における宗教者身分の廃止	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第五巻特論	6. 最初と最後の頁 169-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 近世宗教史における陰陽道 陰陽道の拡散と忘却	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 62-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井浩志	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 「新しい安倍晴明像」の始まり	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 49巻5号
2. 論文標題 修験道と陰陽道と神道	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 341-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 55
2. 論文標題 中世における清明像の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第五巻特論	6. 最初と最後の頁 71-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 -
2. 論文標題 鎌倉幕府と怪異 『吾妻鏡』の怪異を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 怪異学講義 王権・信仰・いとなみ	6. 最初と最後の頁 154-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 55
2. 論文標題 近世における清明像の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第五巻特論	6. 最初と最後の頁 113-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山浩三・梅田千尋	4. 巻 55
2. 論文標題 陰陽道と「歴代組」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新陰陽道叢書 第五巻特論	6. 最初と最後の頁 231-261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 33
2. 論文標題 総論 近世陰陽道研究の成果と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『新陰陽道叢書』第三巻近世	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 3
2. 論文標題 近世社会における「暦」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『新陰陽道叢書』第三巻近世	6. 最初と最後の頁 91-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 247集
2. 論文標題 吉川家文書の陰陽道祭祀史料 土御門家伝来陰陽道祭祀史料との比較を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告集	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梅田千尋	4. 巻 6
2. 論文標題 民間宗教者の活動と神社	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日本近世史を見通す 6 宗教・思想・文化』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井浩志	4. 巻 315
2. 論文標題 法師陰陽師の実態とその歴史的 성격	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 史学研究 (広島史学研究会, 広島)	6. 最初と最後の頁 14-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井浩志・中村琢	4. 巻 247
2. 論文標題 研究ノート「古谷義昭氏所蔵本(古谷本)暦林問答集の概要と翻刻」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 153-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦	4. 巻 247
2. 論文標題 中世前期の春日社・興福寺と南都陰陽師	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤澤春彦・田中大喜	4. 巻 247
2. 論文標題 吉川家文書「占術・暦注雑書」および紙背文書について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 241-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 247
2. 論文標題 暦注と貞享改暦	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 47-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林淳	4. 巻 53
2. 論文標題 丹生暦と伊勢暦	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛知学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一、久野俊彦	4. 巻 264
2. 論文標題 鏡渭覚書 近世会津の真言僧と陰陽道	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西郊民俗 (西郊民俗談話会)	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 247
2. 論文標題 「ホキ」笈 中世写本を中心に 附；天正十二年写本（歴博本）影印	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 69-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 247
2. 論文標題 史料紹介：寛永八年版大ざつしよ 解題と翻刻・影印	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 289-367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小池淳一	4. 巻 246
2. 論文標題 会津における歴史文化研究拠点の伝承と記録 『新編会津風土記』の分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 283-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小池淳一
2. 発表標題 「安倍晴明伝承の中世的様態 『安部懐中伝暦』をめぐる」
3. 学会等名 日本民俗学会第74回年会（熊本大学）2022年10月2日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小池淳一
2. 発表標題 「「博士」とその周辺」
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会（愛知学院大学／リモート）2022年9月11日、パネル「陰陽師の虚像と実像」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤春彦
2. 発表標題 「中世後期における「陰陽道」の展開」
3. 学会等名 中近世宗教学史研究会2022年度5月例会、2022年5月20日、オンライン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤澤春彦
2. 発表標題 「日本中世における官人陰陽師と非官人系陰陽師」
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会、2022年9月11日、オンライン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細井浩志、赤澤春彦、梅田千尋、小池淳一
2. 発表標題 書評会「安倍晴明像の再生産と変容 『新陰陽道叢書』第5巻特論に見る」
3. 学会等名 （陰陽道史研究の会・暦の思想史研究会共催）、2022年4月18日（Zoom）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細井浩志
2. 発表標題 日本古代の陰陽師の実像と変遷
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会パネル発表「陰陽師の虚像と実像」、2022年9月11日 (Zoom)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細井浩志
2. 発表標題 「古代～中世の暦と暦道」討論会、
3. 学会等名 第14回陰陽道史研究の会2022年10月2日 (Zoom)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細井浩志
2. 発表標題 平安時代の「街の魔術師」 法師陰陽師について、
3. 学会等名 広島史学研究会2022年度大会シンポジウム「古代社会における魔術と宗教」、2022年10月29日 (Zoom)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梅田千尋
2. 発表標題 「朝廷陰陽師像」の近世
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会パネル発表「陰陽師の虚像と実像」、2022年9月11日 (Zoom)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小池淳一
2. 発表標題 『ホキ』の形成に関する一考察 戦国期陰陽道の動態
3. 学会等名 日本宗教学会第80回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小池淳一
2. 発表標題 寛永八年版『大ざつしよ』の意義と位置
3. 学会等名 日本民俗学会第73回年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 中世後期以降の陰陽道と民俗芸能の接点 『陰陽道叢書』と『新陰陽道叢書』の比較を通じて
3. 学会等名 日本民俗芸能学会例会（2021年7月21日）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林淳
2. 発表標題 江戸時代の暦と暦注
3. 学会等名 日本宗教学会パネル「暦の思想史」（2021年9月7日）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細井浩志
2. 発表標題 古代の疫病と「日本」の誕生
3. 学会等名 日本時間学会第13回大会（2021年6月20日オンライン）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小池淳一（編）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 只見町（福島県）教育委員会	5. 総ページ数 79
3. 書名 『奥会津の戦国期文化をさぐる 学僧祐俊の旅と文化遺産』	

1. 著者名 林淳編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名著出版	5. 総ページ数 588
3. 書名 新陰陽道叢書 第五卷特論	

1. 著者名 小池淳一編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名著出版	5. 総ページ数 638
3. 書名 新陰陽道叢書 第四卷民俗・説話	

1. 著者名 梅田千尋編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名著出版	5. 総ページ数 600
3. 書名 新陰陽道叢書 第三巻 近世	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館編（展示プロジェクト委員：小池淳一・梅田千尋・細井浩志・林淳・赤澤春彦 他）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 326
3. 書名 陰陽師とは何者か：うらない、まじない、こよみをつくる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国立歴史民俗博物館企画展示「陰陽師とは何者か うらない、まじない、こよみをつくる」（2023年10月3日～12月10日）にかかわる展示企画・調査・解説など

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細井 浩志 (HOSOI Hiroshi) (30263990)	活水女子大学・国際文化学部・教授 (37405)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小池 淳一 (KOIKE Jun'ichi) (60241452)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	林 淳 (HAYASHI Makoto) (90156456)	愛知学院大学・文学部・教授 (33902)	
研究分担者	赤澤 春彦 (AKAZAWA Haruhiko) (90710559)	摂南大学・国際学部・教授 (34428)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関